

横浜市中区生活支援センター

事業報告書
収支決算書

令和3年度
(令和3年4月～令和4年3月)



(公財) 紫雲会 横浜市中区生活支援センター
令和3年度 事業報告書

本年度も昨年同様長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、計画通りの活動が出来ない事業もありました。その一方で、新たな生活様式が浸透しそれに準じた取り組みを形とすることが出来た1年であったという印象です。

また、開所当初より勤めていた職員の退職などあり、支援内容の検討・共有、支援の質や職員体制など、改めて見直しを行う機会が多い1年となりました。特に同じ職員が長く関わっていたことで成立した関係性、支援が明確になるケースもあり、担当の変更が生じてもその方の不利益にならないよう意識し支援を実施しました。

フリースペースでの活動等、人が集まる場面に関してはより慎重に、感染状況に応じて職員間で都度協議検討し、感染リスクを抑えながらも新型コロナウイルス感染症による利用者の不利益を少しでも軽減することができるよう事業を実施しました。

また、センター運営の更なる向上策として、職員の業務の中に「フリースペースの在り方検討チーム」「ピアスタッフ検討チーム」「業務整理チーム」「防災検討チーム」「人材育成検討チーム」のチームを編成しました。複数の職員が関わりを持つことで相互に活発に意見を出し合い、職員が主体的にセンターの在り方や業務を捉え、現状の課題把握や見直し、必要な対応を行いました。

さらに人材育成チームによる検討と併せ、昨年と同様、職員の技法や資質向上のために職員会議での研修・事例検討の実施やスーパーバイズの強化を図りました。

I. 令和3年度 運営実績報告書

令和4年3月31日現在

登録者数（当事者本人のみ）	476名		
利用実績（開館日 307日）			
来館者数（当事者本人のみ）	12.8名/日	相談等利用実績	
サービス利用		電話相談	21.6件/日
夕食サービス	5.8名/日	面接相談	2.3件/日
入浴サービス	3.3名/日	フリースペース対応	0.7件/日
洗濯サービス	0.1名/日	嘱託医相談	16件/年
インターネットサービス	0名/日	訪問・同行	1.1件/日

II. 地域活動支援センター事業

1. <相談支援>

- ①面接相談…アクリル板の設置や消毒の徹底等コロナへの対策を講じつつ、以前と同様の丁寧な対応を心がけて実施しました。
- ②電話相談…その場の電話での対応だけに終始することなく、職員が傾聴を重ねながら必要なアセスメントを実施し、必要に応じてその後の対応につなげていくことができるよう、電話の対応だけに終始しないように心がけた支援を実施しました。
- ③嘱託医相談…月2回、近隣医療機関から2名の精神科医師に委託して嘱託医相談を実施しました。相談後、内容等を職員に周知及び必要に応じて他機関に繋げる等の措置を講じました。
- ④出張相談…本年度は実施しませんでした。

2. <訪問・同行>

引き続き新型コロナウイルス感染症の影響下のもと、生活支援センター実務者会議での「訪問・同行の在り方の検討報告」や限られたマンパワーで訪問を実施していくことを踏まえ、大切なニーズを取りこぼすことなく対応することができるよう、必要な支援を適切に行っていくことを職員間でも共有し、常に支援方法を検討しながら実施しました。

3. <家族支援>

引き続き家族支援の考え方としては、ご家族をご本人と同様困難に直面している当事者と捉えた直接支援と、ご本人をとりまく環境要因として家族自身のマンパワーを高めるための後方支援の両側面からの支援が必要と捉え、家族からの相談への対応や支援を行いました。

また、今年度の中区家族会（みなと会）定例会は数回コロナウイルス感染症の影響により定例会の中止があったものの、開催にあわせたオブザーバー参加を継続して行いました。

4. <自主事業>

昨年同様、感染のリスクを念頭に置き、感染状況に配慮する等の対策をとったうえでクリスマス昼食会等のプログラムを実施しました。また、新しい生活様式下で実施できるイベントとして、フリースペースにて「しゃべり場」を数年ぶりに再開しました。以前とは違った形式ではありますが、このような状況だからこそ他者との交流がニーズとしてあることを再認する機会となりました。

5. <情報提供>

毎月発行のセンター発行誌『NAKAKU TIMES』、ホームページ等に情報を掲載し、当事者や家族、地域関係機関に向けた情報提供を実施しました。

他機関の情報等についてはフリースペースへの掲示や配架等もあわせて行い、タイムリーな情報提供を心掛けました。

6. <地域連携・地域交流・普及啓発>

地域連携及び地域交流は当センターの重要項目に掲げておりますが、コロナウイルス感染症の影響により中止となる場面もあり、積極的な実践ができたとは言えない状況でした。しかしながらリモート会議等センターに居ながらも参加できる方法が選択肢として広がったことにより、より多くの職員が必要な会議に参加することができました。

また、区役所・基幹相談支援センターとともに「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」や「地域生活支援拠点」についての協議に参画する中で、地域連携の実践について意見交換を行い、今後の取り組みについて検討していくことができました。

他方、生活支援センターとして地域ケアプラザとの交流会を実施し、相互の理解を深め、意見交換を行う機会を持つことができました。

ポンテ祭りやポレポレ祭りといった、地域との交流のイベントや、地域町内会・区内障害団体の実施するイベントへの参加は、中止となり実現しませんでした。

7. <メンバーミーティング>

メンバーミーティングの実施については、より参加しやすい雰囲気づくりを意図した工夫を行いました。参加する職員を一部の職員に固定せず、多くの職員が関わることによりセンター職員全体として利用者さんと向き合うことができ、利用者さんも話がしやすい場となるよう心掛けました。

また、生活支援センターに対する個々のニーズや意見を拾うことができるよう、利用者アンケートを実施しました。

Ⅲ. 地域移行・地域定着支援事業（退サポ）

今年度、横浜市精神障害者退院サポート事業は3名体制で実施しました。職員ごとに経験年数に差があったため、普段から支援状況について共有し、支援者間でケースについての相談がしやすい体制を意識しました。

利用者数は13名（内4名は「相談中」での支援）です。ご本人の高齢化に伴い退院先の選択肢が狭まることで退院が難航しているケースが複数見受けられます。また、ご本人がグループホームを希望しているものの、希望している区で空きが出ないがために入院が長期化してしまう傾向も見受けられます。支援終了のケースについては、退院サポでの支援は終了しましたが、生活支援センター本体での支援は継続して行っています。相談はご本人だけではなく、ご家族からも定期的に電話・面談を通してあり、都度対応をしています。

社会情勢の影響で病院への訪問が制限されたこともあり、今年度もご本人への支援が思うように進まない年度となりました。その中でも病院によってはオンラインでの面談が活用されるなど、工夫がなされています。また、支援中断によりご本人の退院への意欲が低下しないよう、社会情勢にあわせた支援の在り方を考えることは今後も継続して必要だと実感しました。

次年度も、生活支援センターの他業務や自立支援協議会、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムなど、多様な業務や協議体と目的を共有し、連携をしながら地域移行・定着に向けた支援を実施したいと思います。また、病院への啓発活動については、ケースの依頼が定期的にある中で、誰を対象とし、何が必要

とされるのか精査した上で、手段・方法などを検討し実施したいと思います。

令和3年度支援実績		
個別支援	支援継続	13名
	退院者	3名
	中断・中止	1件
啓発活動	医療機関	0回

IV. 自立生活アシスタント事業

令和3年度末の登録者数は11名と3名減って5名が終了、未登録の方が5名から6名に増加。終了の方は他区生活支援センターへの引継ぎ、利用者の希望で終了等の理由でした。新規登録者は自立生活援助が終了し自アシ登録になったケース、ご本人の希望で短期間の支援ケースもありました。また、相談者対応の人数は変わっていませんが、新規の相談が増えています。

登録者の男女内訳では男性が6名・女性5名となっており、昨年度と変わらず男性と女性の比率は同じになっています。相談対応中の男女内訳は男性が4名・女性が2名となっています。

援助件数の方法・内容は、新型コロナウイルス感染症の影響もあってか去年に引き続き特に電話の相談が顕著に多く、ついで訪問と同行、面談の件数は大きな変化はありません。内容としては昨年度同様心理情緒、消費生活や衣食住の援助が多くありますが登録者の高齢化もあってか、新たに医療健康の相談が増えています。相談したいときにその場でできるツールとして電話が利用され、身近な相談役として関わる事ができています。また感染症対策を行いながら必要なアウトリーチの支援を継続しています。

依頼元としては区役所の生活保護担当、障害福祉担当などの行政機関、計画相談事業所、基幹相談支援センターから相談がありました。

今年度も継続して中区内において同事業を行っている「ぼーと」、基幹相談支援センター、区役所の知的障害、精神障害と高齢の担当者を含めて区内自アシ連絡会を実施。情報共有と自アシの支援内容について話し合いを行いました。その結果、利用者の高齢化や8050問題だけではなく寿町の相談ケースが増えてきている現状を共有しました。

支援内訳 (R3年4月～R4年3月)	支援者数		援助内容	
	登録者	16名	心理情緒	319回
相談中	6名	医療健康	246回	
新規登録	2名	消費生活	334回	
登録終了	5名	就労	124回	
	援助方法		衣食住	309回
	面接	44件	対人	128回
	電話	525件	制度	113回
	訪問	191件	アシスタント所属施設の利用	9回
	同行	51件	関係機関との連携	151回
	カンファレンス	4件	余暇支援	71回

V. 指定相談支援事業（計画相談・地域相談）

計画相談については区役所障害支援課と連携して実施。特に入退院が頻回である・地域社会資源とのつながりが途絶しがちである等、緊急性の高いケースについては重層的な支援を意識した対応を行いました。

また実施においては新型コロナウイルス感染症のリスクを踏まえ、十分な対策をとったうえでの訪問を行うとともに、ご本人の状況に応じ電話対応も併せて実施しました。

《実績》（令和3年3月末現在） 現在継続利用者数：74名

VI. 指定自立生活援助事業

今年度は延べで4名の方が本事業を利用されましたが、修了者が2名おり、3月現在で2名が利用中となっています。計画相談や自立生活アシスタント事業との関係性も十分考慮しながら進めていき、有意義な連携を図りつつ今後進めていきます。

VII. その他

1. 職員資質の向上・人材育成

昨年度同様、継続して職員の知識、資質、技法の向上を図るべく取り組みを実施しました。

センター内部研修として職員会議の実施日に外部講師を招き、「記録作成」「権利擁護」等についての講義を実施しました。同様に事例検討を複数回実施し、外部講師の参加を依頼しました。普段とは違った多角的な視点からの有意な検討を行うことができました。

また、昨年度より実施しているグループスーパービジョンを継続し職員間での研鑽を図りました。

2. 安全管理・災害対策

継続して新型コロナウイルス感染症に関する注意喚起を行うとともに、災害に備えた既存のマニュアルの見直し・点検、万一の災害時に対するシミュレーションの確認など、合築の地域活動ホームと協議しながら検討を深めました。災害用備蓄品の整備、また、中区との協定による福祉避難所の為の備蓄品に加えて、マスク、消毒アルコール等の備蓄品、感染対策備品等を整備しました。

令和3年度 中区精神障害者生活支援センター収支決算書
(総括版)

自令和3年4月1日 至令和4年3月31日

(単位:円)

科目	予算額	決算額	決算額のうち 法人負担金額	差 額	備 考
I 収入の部					
1 指定管理料収入(当初)	70,170,000	70,170,000		0	
2 指定管理料収入(変更)				0	変更なし
3 法人負担金	3,405,000	1,355,760		2,049,240	
4 相談支援事業に要した交通費収入				0	
5 自立支援給付費収入		5,948,414		▲ 5,948,414	給付費:5,964,014円、手数料:15,600円
6 食事サービス収入		688,000		▲ 688,000	
7 入浴・洗濯・インターネットサービス収入		112,300		▲ 112,300	
8 その他の実費収入など		42,246		▲ 42,246	飲物、洗剤、シャンプー等販売
収入合計	73,575,000	71,525,760		▲ 4,741,720	
II 支出の部					
1 人件費	65,133,000	63,218,866	1,102,866	1,914,134	
所長				▲ 1,179,830	1名
常勤職員				▲ 2,067,274	5名
非常勤職員	15,516,000	11,982,796	0	3,533,204	4名
アルバイト	4,907,000	3,595,672	0	1,311,328	週4回、週1日
調理アルバイト	1,314,000	1,121,440	0	192,560	週4回×2名
嘱託医賃金	484,000	463,680	0	20,320	月2日(4回)2名
法定福利費	8,379,000	8,379,200	128,018	▲ 200	健保・厚生、労働保険料
退職金給与引当金	171,000	170,388	0	612	
福利厚生費	875,000	783,340	0	91,660	市社協年金共済
労務厚生費	100,000	88,246	0	11,754	健康診断料、予防接種代
2 施設管理費	3,694,000	3,459,066	0	234,934	
光熱水費	2,070,000	1,789,978	0	280,022	電気・ガス・水道
庁舎管理費	1,504,000	1,581,388	0	▲ 77,388	設備管理、警備、清掃、保守料等
修繕積立金	200,000	200,000	0	0	年末残高:1,800,000円
利用者負担金充当金	▲ 80,000	▲ 112,300	0	32,300	入浴・洗濯・インターネット
3 運営費	4,748,000	3,895,018	252,894	852,982	
旅費	1,100,000	714,088	203,478	385,912	職員出張旅費
消耗品費	400,000	430,168	0	▲ 30,168	日用品、事務用品、災害備蓄品等
印刷製本費	270,000	145,775	0	124,225	印刷・コピー代
修繕費	100,000	118,352	0	▲ 18,352	LED化工事費、防火シャッター修繕
通信運搬費	742,000	823,422	31,304	▲ 81,422	電話、ネット等通信費、切手等
賃借料	460,000	288,816	0	171,184	コピー機、カーリース代
備品等購入費	550,000	565,794	0	▲ 15,794	LED機器、PC、モニタ、洗濯機、乾燥機等
保険料	120,000	103,170	0	16,830	施設賠償保険
雑費	1,006,000	705,433	18,112	300,567	会費、研修費、ウェアクセンビリティ検査料等
4 本部繰入金	0	0	0	0	
5 食事サービス費の支出		738,536		▲ 738,536	
6 その他の実費からの支出		27,593		▲ 27,593	販売用飲料(洗剤・シャンプーは日用品)
支出合計	73,575,000	70,572,950	1,355,760	2,235,921	
III 戻入の部					
人件費戻入精算分		0			
戻入合計		0			